

なみなみ通信

福岡県水産海洋技術センター情報誌

なみなみ通信は、センターと各研究所からの情報を、漁業者や県民の方にお知らせする情報誌です。

V O L . 6 5

発行 / 平成 28 年 6 月



アサリ稚貝育成装置「かぐや」 稚貝取り出し作業

調査情報

- ・ 海況情報 2
- ・ 有明海のノリ養殖 2 年連続で生産額 150 億円超え 2
- ・ 27 年度 カキ養殖生産結果 3

研究情報

- ・ アサリ稚貝育成装置「かぐや」の開発 4

なみなみニュース

- ・ 「ふくおか地魚応援の店」さわらフェア開催 5
- ・ おめで鯛まつりを開催 5
- ・ 「豊前海一粒かき」最後の天神キャンペーン 6
- ・ アユの遡上量が増加 6

研究員紹介

- ・ 企画管理部 主任技師 廣瀬 道宣 6

普及だより

- ・ 岩屋あかもく部会 6 次化商品コンクール 県知事賞受賞 7
- ・ 有明海ガザミ育成会 第 20 回福岡県農林水産まつり
農林水産賞水産部門受賞 7
- ・ 行橋市漁協青壮年部角田誠さん 第 21 回全国青年・女性漁業者
交流大会 全国水産試験場場長会会長賞受賞 7

- 人事異動 8

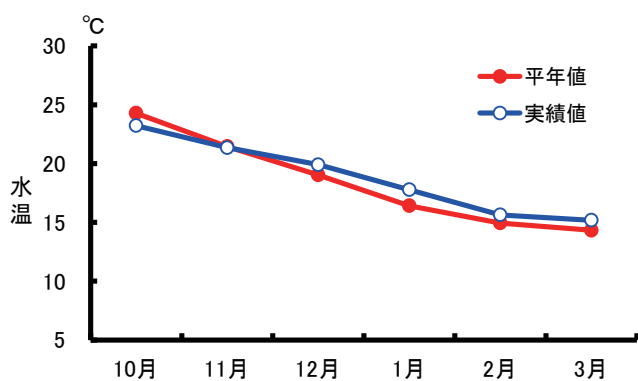
調査情報

海況情報

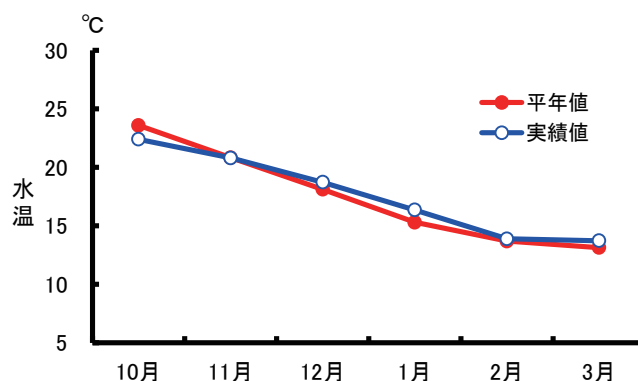
10～3月の表層水温は、筑前海の沖合域では、10月がやや低め、11月は平年並み、12、2、3月はやや高め、1月はかなり高めでした。沿岸域では、10月がかなり低め、11月と2月は平年並み、12、1、3月はやや高めでした。

有明海では、10月がやや低め、11月はかなり高め、12月と3月はやや高め、1月と2月は平年並みでした。

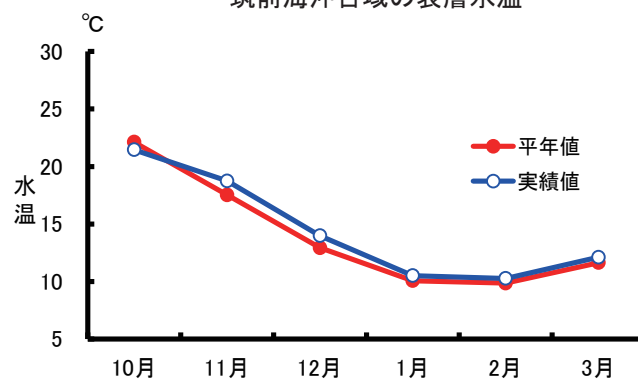
豊前海では、10月がやや低め、11、2、3月は平年並み、12月はやや高め、1月はかなり高めでした。



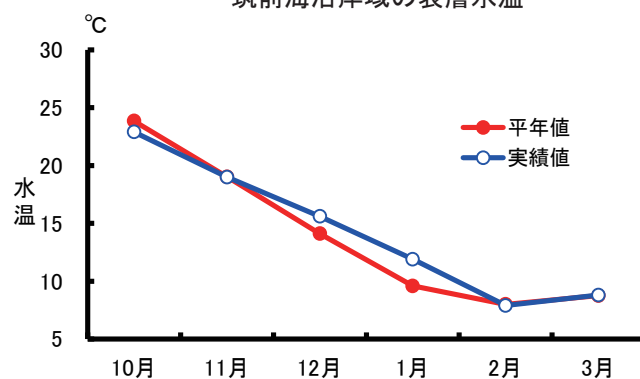
筑前海沖合域の表層水温



筑前海沿岸域の表層水温



有明海の表層水温



豊前海の表層水温

有明海のノリ養殖 2年連続で生産額 150 億円超え

今期の有明海におけるノリ養殖は、枚数が12.6億枚（平年比95%）、金額が153億円（平年比111%）となり、2年連続で150億円超えとなりました。

今期は、10月14日の採苗後、海況は順調に推移しましたが、秋芽網生産期に入った11月中旬以降の高水温と多雨のため、生産に大きな被害をもたらすあかぐされ病の感染が拡大し、秋芽網の生産量は平年の半分に留まりました。一方、冷凍網生産期には海況が安定したことや14年ぶりの12円台という高単価にも支えられて、秋芽網の不振を挽回し、最終的に平年を上回る生産額となりました。



初回海苔入札会
(写真提供：海苔産業情報センター)」

(有明海研究所)

27 年度 カキ養殖生産結果

本県の養殖カキは、豊前海区と、筑前海区のうち糸島地区と唐泊地区が主な産地となっています。27年度の各海区の生産状況は以下のとおりです。

【豊前海区】

カキは、養殖開始の春から海況が安定していたことから、順調に生育しました。

生産が減少する要因となるクロダイの食害は、豊前海研究所が開発した「束ね垂下」による効果もあり、軽減されました。

また、夏以降の水温や餌条件も良く、出荷も例年どおり11月から3月まで行われた結果、生産量は約1,360トン（平年比99%）と平年並みとなりました。



豊前海一粒かき（豊前海区）



束ね垂下

【筑前海区】

今漁期のカキ養殖は全般的に順調で、筑前海区全体で約595トン（平年比163%）の生産がありました。主要産地の生産量は、糸島地区では、豊漁年であった昨年をさらに上回る約514トン（平年比177%）、唐泊地区も順調で約70トン（平年比97%）となりました。

また、脇之浦地区では、2月18日にカキ小屋が新規にオープンし、大勢のお客様で賑わいました。



脇之浦地区のカキ小屋（筑前海区）

（豊前海研究所、研究部）

研究情報

アサリ稚貝育成装置「かぐや」の開発

豊前海は、かつて全国有数のアサリ生産地でしたが、その漁獲量は昭和61年の11,000トンピークに急減し、現在、非常に低水準で推移しています。

このような状況の中、豊前海研究所では、干潟の竹杭の中からアサリが偶然発見されたことを契機に、「かぐや」という新たなアサリ稚貝育成装置を開発しました。

装置の材質は、竹から加工しやすい塩ビ管に変更し、稚貝が十分に育つことを確認しました。また、設置場所は、干潟から管理のしやすい漁港内に移すとともに、装置のサイズなどについても検討を重ね、野菜カゴに収納できるよう小型化しました。



かぐや装置の効率化（左：干潟設置型（旧型）、右：漁港設置型（現行型））

装置への稚貝の収容方法について検討した結果、殻長0.5mmの微小サイズから投入が可能で、約2ヶ月で10mm程度に成長することがわかりました。また、装置による生産稚貝のコストを試算したところ、従来の陸上生産に比べ大幅なコストの低減につながりました。

県では、27年12月に本装置の特許権を取得しました（登録番号「特許第5857296号 二枚貝の養殖方法及び装置」）。研究所では、装置の製作や使用方法に関するマニュアルを作成し、豊前海の全漁協へ配布するとともに、各地で技術指導を行っています。

現在は、装置で生産した稚貝を袋網入れ、干潟での育成試験に取り組んでおり、3cmを超える商品サイズまでの育成を実証しました。

研究所では、これらの技術のアサリ資源の回復につなげたいと考えています。



かぐや装置で育成した稚貝



袋網を用いた育成試験

（豊前海研究所）

なみなみニュース

「ふくおかの地魚応援の店」さώραフェア開催

2月2日～14日の間、「ふくおかの地魚応援の店」23店舗が、旬の県産のサワラを使った自慢の料理を提供するさώραフェアを開催しました。各店舗では、サワラの刺身、炙り、西京焼き、酒蒸しなど、創意工夫をこらした料理が提供されました。お客様から、「初めてサワラを食べたが美味しかった」「脂がとてものっていた」などの好評なご意見を、店舗の方からは「旬のサワラは美味しいので、今後とも食材として使用したい」「サワラの知名度が低いので、もっとその良さを知ってほしい」などの声を頂きました。今後も、県民の皆さんに県産の美味しい地魚を知って、食べてもらえるイベントを開催する予定です。

ふくおかの地魚応援の店HPアドレス

http://www.sea-net.pref.fukuoka.jp/ippan/fukuoka_jizakana/



刺身と炙り



西京焼き



酒蒸し



おめで鯛まつりを開催

水産海洋技術センターでは、11月28日に、「フクオカ・サイエンスマンス（科学技術創造月間）」の一環として、毎年恒例の「おめで鯛まつり」を開催しました。県民の皆さんに、水産業についての理解を深めてもらうため、研究成果の紹介や水産物の試食コーナー、子供が楽しめる体験コーナーなどを設け、多くの方に来場していただきました。特に、今回初めて実施した「鯉釣り」は大盛況で、終了時間ぎりぎりまで、多くの方に楽しんでいただきました。今後も、楽しく水産業のことを学べるイベントを実施していきます。



鯉釣りで賑わう来場者

「豊前海一粒かき」最後の天神キャンペーン

2月5日、天神中央公園にて「第16回豊前海一粒かき天神キャンペーン」が行われ、多くの方に訪れていただきました。天神キャンペーンは、身入りが良く濃厚な味わいの「豊前海一粒かき」を県民の皆様にPRするため、毎年2月の第1金曜日に開催されてきました。今回で最後となりますが、来場者の方々からは、「毎年楽しみにしていたのに残念です」等、イベント終了を惜しむ声が多く聞かれました。これからも県内外で「豊前海一粒かき」をPRしていきますので、御支援をよろしくお願いします。



豊前海一粒かきの試食販売

アユの遡上量が増加

県内の河川では、24年の九州北部豪雨によるアユの親魚の減少や産卵場の荒廃などにより、アユの漁獲量がかつてないほど減少しました。アユの資源を回復させるため、県と漁業者の皆さんが共に受精卵や種苗の放流、産卵場造成に取り組んで来ました。

今年も筑後川や矢部川など主要河川でアユの遡上が3月中旬から始まり、4月に盛期を迎えました。関係者のこれまでの努力もあり、昨年比べて数倍の遡上が見られており、漁業者の皆さんは資源回復の兆しが出てきたと期待しています。



遡上してきたアユを各漁場（川）へ移植するための汲み上げ作業風景

研究員紹介

企画管理部 主任技師 廣瀬 道宣

企画管理部企画情報課2年目の廣瀬道宣と申します。イベント関連業務や中学生の職場体験の受入など、主に一般の方々に水産業を知ってもらうための仕事を担当しています。

昨年の夏休みイベントの「生きたタコからたこ焼きをつくろう」では、タコになりきって関門海峡たこの説明をしました。子供達には、実際にたこに触ってもらった後に、たこ焼き作りを体験してもらいました。子供達は、美味しそうに自分達で作ったたこ焼きを食べていました。

今後も、皆さんが楽しめるイベントを企画していきたいと思いますので、よろしくお願いします。



普及だより

岩屋あかもく部会 6次化商品コンクール 県知事賞受賞

ひびき灘漁協岩屋支所あかもく部会の新製品「あかもくスープ・味噌汁」が、27 年度「福岡県 6 次化商品コンクール」において、最高賞の「知事賞」を受賞しました。

アカモクは食物繊維やミネラル、ネバネバ成分のフコイダンなどをたっぷり含む海藻です。部会では、このアカモクを手軽に味わってもらいたいとの思いから、フリーズドライのスープと味噌汁を開発しました。どちらもアカモクの特徴である強力な粘りが活かされたとても美味しい商品となっています。是非、皆さん、御賞味ください。



あかもくスープ・味噌汁

有明海ガザミ育成会 第 20 回福岡県農林水産まつり 農林水産賞水産部門受賞

11 月 14 日に福岡市で開催された第 20 回福岡県農林水産まつりにおいて、有明海ガザミ育成会が農林水産賞水産部門を受賞しました。

ガザミ育成会は、有明海の美味しいガザミを皆さんに提供し続けるために、種苗の中間育成・管理、放流作業などの栽培漁業の取組をはじめ、小型ガザミや抱卵ガザミの保護、軟甲ガザミの再放流など資源の維持・増大に向けた取組を長年にわたり継続しており、これらの活動が高く評価されました。



左：ガザミ育成会 堤会長
右：沖端漁協 朱牟田組合長

行橋市漁協青壮年部角田誠さん 第 21 回全国青年・女性漁業者 交流大会 全国水産試験場長会会長賞受賞

3 月 1 日と 2 日の 2 日間にわたり、東京都で第 21 回全国青年・女性漁業者交流大会 (JF 全漁連主催) が開催されました。

福岡県からは、行橋市漁協青壮年部の角田誠さんが「アサリ復活を夢見て～資源量 0 トンからの挑戦～」というテーマで発表を行い、全国水産試験場長会会長賞を受賞しました。

発表では、行橋市漁協本所の青壮年部による「かぐや装置」を用いた稚貝の育成や、その稚貝を成貝まで育成するための袋網による育成試験について紹介し、その成果として、漁協で実に 20 年ぶりとなるアサリの試験出荷ができたことを報告しました。

新たな技術を取り入れ、試行錯誤による着実なアサリ増殖の取組が高く評価され、今回の受賞となりました。



「全国水産試験場長会会長賞」
を受賞した角田さん

人事異動

(平成28年4月1日付け)

○水産海洋技術センター

新 所 属	職 名	氏 名	旧 所 属
企画管理部 総務課	課 長	嶋中 輝明	北九州労働者支援事務所
	事務主査	池 芳隆	パスポートセンター
	技能員	横坂 武志	再任用
研究部	研究部長	濱田 弘之	漁業管理課 (漁調委事務局)
資源環境課 (つくし)	技術主査	松村 鉄之	豊前海研究所 (ぶぜん)
浅海増殖課	技 師	林田 宜之	新規採用
応用技術課	課 長	内田 秀和	水資源対策課

○有明海研究所

新 所 属	職 名	氏 名	旧 所 属
のり養殖課	主任主事	田中 由希子	筑後県税事務所
	技 師	安河内 雄介	新規採用

○豊前海研究所

新 所 属	職 名	氏 名	旧 所 属
漁業資源課	主任主事	坂井 忠成	再任用
漁業資源課 (ぶぜん)	技術主査	藤内 秀明	水産海洋技術センター (つくし)
	技 師	大西 哲平	漁業管理課 (しんぷう)
浅海増殖課	研究員	恵崎 撰	水産海洋技術センター

△転出

新 所 属	職 名	氏 名	旧 所 属
農林水産部水産局 漁業管理課 (漁調委事務局)	事務局長	池内 仁	水産海洋技術センター
漁業管理課	技 師	江頭 亮介	有明海研究所
漁業管理課 (しんぷう)	主任技師	堂本 博司	水産海洋技術センター (げんかい)
水産振興課	主任技師	大形 拓路	豊前海研究所
県土整備部 水資源対策課	参事補佐	安藤 朗彦	水産海洋技術センター
総務部 財産活用課	主任技能員	友岡 裕晶	水産海洋技術センター
西福岡県税事務所	事務主査	岩永 正彦	水産海洋技術センター
企画・地域振興部 パスポートセンター久留米支所	事務主査	野田 孝一	有明海研究所
保険医療介護部 糸島保健福祉事務所	事務主査	中原 貞典	水産海洋技術センター

□退職 (平成28年3月31日付け)

旧 所 属	職 名	氏 名
水産海洋技術センター	総務課長	中原 貞典
	主任技能員	横坂 武志
豊前海研究所	企画主査	坂井 忠成

<編集発行> 福岡県水産海洋技術センター企画管理部企画情報課

〒819-0165 福岡市西区今津1141番地1

TEL 092-806-5251 FAX 092-806-5223

センターホームページ <http://www.sea-net.pref.fukuoka.jp/>

携帯電話対応 <http://www.sea-net.pref.fukuoka.jp/mobile/>